

平成25年度第1回七尾市行財政改革推進委員会 議事録

日 時	平成25年6月7日（金） 午後1時30分～午後2時50分
場 所	七尾市役所 3階 議会全員協議会室
委員会における審議事項（質疑応答・意見等）	
副市長	<p>1. 七尾市副市長挨拶（※挨拶後退席）</p> <p>平成22年度から行革2次プランに取り組んできた。本日は2次プランの総括審議をお願いしたい。次回からは3次プラン作成に向けて取り組んでいただく。平成16年10月1日新七尾市がスタートし、来年で合併10年。その翌年度からは地方交付税が5年間で約19億円減額の見込み。3次プランではなお一層厳しい取り組みを行わなければならないと考えている。30年後七尾市の人口は約35,000人と驚くような発表があった。子供孫の代に大きな借金を残したまま減少すれば一人当たりの負担が益々大きくなる。市民の皆さまの英知もいただきながら、市政の適正な運営にご協力を、将来にわたる七尾市のためにも、忌憚のない意見をお願いしたい。</p>
委員長	<p>2. 委員長あいさつ</p> <p>大変暑い日が続いている。5月から雨が降ったのはたった2日。雨も行財政改革と市民の関係のようか。どの塩梅がよいのか2次プランの総括的提案に忌憚のない意見を。また普通交付税の優遇措置が切れ19億円財源が不足する状況の中での財政運営についても、本日は大枠について提案がある。</p>
委員長	<p>3. 審議事項</p> <p>それでは、2次プラン達成状況について事務局より説明願う。</p>
事務局	<p>資料により説明</p> <p>一部計画どおり、未達成については引き続き3次プランで検討して</p>

委員	<p>いく。</p> <p><b>－質疑・意見－</b></p> <p>未達成や一部計画どおりとなったものに対する「原因」をどのように捉えているか。</p>
事務局	<p>時間外手当については、職員の定数削減もあり、一人ひとりの業務量が増加している。年度ごとのイベントの増加等もある。(H24インターハイヨットなど)</p>
事務局	<p>本日は、小川産業部長代理で出席した。資料に沿って順次説明させていただく。いいPARK七尾は、能越自動車道供用に伴い160号沿線の人が少ない、営業不足もあるが各施設頑張っている。島の湯は(指定管理で)代表が市長から民間の社長に変更し新たに頑張る。交流市場も指定管理者シダックスとなり4/6リニューアル、少し数値は上っている。家族旅行村は昨年1千万円の寄付があり、冷暖房施設を整備した。施設の老朽化に伴う入込数の減も考えられる。目標設定しながら今後も頑張っていきたい。</p>
事務局	<p>フラワーパークについて、H24の利用者数は蘭遊館14,711人、施設内(利用者)44,824人で合計59,535人。目標人数については達成している。しかし5つの事業(蘭展示、花販売、飲食、物販、グランド・パークゴルフ)各々、収入に比べて経費が多く基本的には赤字。事業計画を策定し、利用度売上費アップを図っているが達成されていない状況。事業を精査し抜本的な見直しを行い、3次プランへつなげる。</p>
委員	<p>今の説明は「現状」である。「原因」について聞いたのだが。</p>

委員	<p>中にはいくつか（原因の）要素もあったようだが。時間外手当でいえば、（時間が）ないと出来ないもの、勤務時間中では人数不足で（仕事を）こなしきれず時間外になるものなど。その件についても説明を。</p>
事務局	<p>日中の会議、窓口業務等により時間外に事務処理を行う必要が出てくる部署もある。</p>
委員	<p>フラワーパークの「経費が多い」というのはどの点か。</p>
事務局	<p>グランドゴルフ等の利用者の単価は微々たるもの。主な収入は蘭展示場で、平成23年度の売上は670万円程であるが、温室であるための光熱水費や人件費等で赤字。飲食店の利用者も少ない。物販も努力しているが。根本的に社会情勢の変化もあるかと思う。</p>
委員	<p>目標の立て方がまずかったのか、立てた経営計画が実行されていないのか。人数が達成されているのに赤字ということは、ビジネスモデル自体が間違っているということ。</p>
事務局	<p>フラワーパークの設立目的は、地元での蘭生産と販売、プラス来館者が和倉温泉や七尾市内へ行くことでの交流人口増。蘭は技術的に育成も難しい。蘭を購入して展示しているため無理があり、最初の目標が甘かったのかも踏まえて今後検討したい。</p>
委員	<p>つまり、（施設の）使いどころを変化させてきたが、全体でバランスが取れていない。3次プランで思い切った改革を。</p>
委員	<p>各施設のビジネスモデル、計画の評価をしているのか。その基準は。指定管理が増える中で「評価基準」が重要。再度、運営が無理なら閉鎖も考え議論していかななくてはいけない。</p>

委員	<p>指定管理制度評価についての公開は。</p>
事務局	<p>指定管理には、公募型で民間の方のプレゼンによる選定と、指名型で地元町会、団体に管理するものがある。毎年収支チェックを行い、区切られた年数（指定期間3～5年）ごとに運営状況を見ながら見直しを図っている。</p>
事務局	<p>管理運営状況のHP公開を実施している。これを踏まえて今後の対応が議論されるのではないかと思う。現状、2次プランは公表という形では達成出来たと考えている。</p>
委員	<p>指定管理は、民間のように経営的に上手くいっている、いないだけで評価をしてはいけないと思う。あくまでも公的な目的をもって作られた施設への評価で、数字には表れない目的が達成されているのであれば、ある程度税金を投入して維持させる判断をするべき。単に赤字＝閉鎖ではない。達成出来なかった「原因」が、目標の立て方にあったのでは。(利用)人数で結果を見ようとすると成果が見逃されがち。例えば職員の削減と時間外手当縮減が、そもそも同じプランに入っていることが矛盾であり、課題ではない。民間でいう一人ひとりの生産性UPが目標値にされるべきで、それが改革であり、数字をクリアしようとして違う方向へ行っている。</p>
委員	<p>取組(項目)の公の施設が中島、能登島に集中している。地域に施設が多いからなのか、他の地域はクリアされているからなのか。地域性について検討したことはあるのか。</p>
事務局	<p>廃止条例が通っているのは、なかじま亭のみ。あくまで「観光施設」として管理をしていた。施設老朽化により厨房等も再投資が必要であ</p>

り、指定管理の応募者もなくなった。周辺の体育館との関係もあり、教育委員会など他部署とも議論したが、なかなか地元の利用もない。速やかに所管換えをしたい。万葉倶楽部は、無名塾宿舎機能もあった。こちらも高額な再投資が必要で、休止状態。瀬嵐集落にも相談。周辺の草刈りさえしてくれれば休止はやむを得ないという理解もしていただいている。適正化法の関係もあり、跡地利用も検討はしたが。交流市場も新たな一手を。古く、使い勝手も悪かった。今般から魚も販売、一次産業者、加工品も販売するので期待している。

家族旅行村は、エアコン無いなら止めますという電話が年間130件程あった。今回（寄付者により）エアコンを装備したので今夏は期待したい。中島オートキャンプ場は、指定管理料年間135万でやってもらっている。企業精神で率先し、代表者の給料もないくらいボランティア的に関わっていただいている。森林浴も出来るが周辺環境の整備については、行政の責任もある。高額投資については行政が持つべきであるが、実際なかなか応えられない。営業努力はしていただいている。国民宿舎小牧台と猿田彦温泉は、総湯に人が取られている。島の湯も隣市に総湯類似施設が完成したのも影響ありか。能登島は食も売り。（猿田彦温泉は）地域内の健康福祉向上の一環だろうという判断をしている。小牧台は指定管理料ゼロでやってもらっている。利用料金で頑張っていくしかないが、5～6千人規模は難しい。周辺公園整備と併せて、テニスコートのナイターへの再投資をして地域全体との連携を高めていく中で営業努力をしていく等、3次プランに向けて検討する。

委員

必要なものは残す、不必要ならば切る。連携をして地域の施設が有効に機能するように検討を。特に地域の方々と連携を深めながら進めてほしい。単に採算がとれないから、利用者が少ないから切っていくのではなく、努力によって必要なものはなんとか回復するであろうし、財政を投入しても、必要なものは必要である。その辺十分検討を。

委員	<p>まちづくり基本条例で取組むものが、本当の意味で必要になってくるのでは。具体的な形でどの辺までプランは進んでいるのか、組織はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>まちづくり基本条例を、どう市民の方に理解していただき生かしていくか。市民推進委員会、庁内推進会（行政）を組織している。各部署においても具体的に取組中。一方で、条例の「指針」づくりのための市民委員会も立ち上げていきたい。委員15名を公募した。</p>
委員	<p>条例は出来た、組織も作られつつある。目指すところの市民行政と協働したまちづくりを具現化、また議論されなければいけないものは何なのか。施設利用の問題もある。十分市民の意見、行政の考えを入れて目に見える形で、スピードを持ってやっていただきたい。</p>
委員	<p>公共施設の指定管理で、修繕等投資への市予算の線引きはどうなっているか。観光は総合的であり、他で相乗効果があればそれでいい。</p>
事務局	<p>大修繕が必要なものは、実態を見ながら予算措置している。各施設の小修繕は、基本的には指定管理団体でやってもらっている。全体を見ながらの判断は大切な視点であり、3次プランの中でご意見いただければ幸いである。</p>
委員	<p>消防施設を早急に改修してほしい等、指摘を受け市へ上げても、なかなか直せないとなる。施設で残すものは順次予算を持って対応をしていただきたい。</p>
委員長	<p>続いて、普通交付税優遇措置について説明を。</p>

事務局	<p>資料 2 に沿って説明。</p> <p>なぜ 3 次プランに取り組むかについて、地方交付税が 5 年間で段階的に減額し、最終的に 19 億円の減となる。次回から皆さんに 3 次プランの個々検討していただきたい。施設の人件費等、現在提示出来る数値的なものを整理中である。19 億円の減少、人口減少による市税の減少、高齢化の進行による社会保障関係費の増加を見込むと 19 億では収まらないことも考えられる。次回からはこの中でどうやっていくのか、大枠の提案である。</p>
委員	<p>これは、3 次プランへの布石だと思う。地方行政は、効率を求めるより住民サービスの方が大事では。</p>
委員	<p>資料の中に「市民サービス全般への見直しが必要」とあるが、2 年後に迫っていることであり組織全般での具体的なシュミレーション等があれば伺いたい。(人件費、課の配置、部長制など)</p>
事務局	<p>具体的な話は、これから皆さんと一緒に考えていきたい。どの事業を見直すか、判断するための資料を作成中である。</p>
委員	<p>1 次プランの時は 30 億であり、次は 19 億かという感じ。当時ピンチはチャンスと言ってきた。危機感があるからこそそのまちづくり基本条例だと思う。市民も関わりながら自分たちの街を作っていく、大きな方向性をつくるチャンス到来と考えて 3 次プランを検討すべき。</p> <p>1 次との違いは条例があること。条例に基づいて制度的にも整備を。行政がやらなければならないことも、本当かと問い直す。市民のまちづくりの意識改革が必要。改革をしかける事業を次の 10 年でやっていかなければならない。</p>
委員	<p>前回にも同様の発言をしたが、実際に住んでいる市民は今いる場所</p>

	<p>から殆ど動かない。どこにいても行政サービスは必要。市民はあれもこれも全てやってくれると思っ込んでいる。特に老人は「やってもらって当たり前」。住民サービスの最低限必要なもの（特に消防に関わる話）は何なのか、ベースに基づいてプランニングを。</p> <p>市民は基本条例が出来ても「やってもらって当たり前」精神で、何も進まない。どうやって行政が市民に対して肩代わりしてもらおうのか、腰を据えて関わってほしい。町会、公民館へまかせただけだと先へは進まない。どうやって市民の意識改革をさせるか、市民の自覚を促すためにも勉強会の場が必要。</p>
委員	<p>1次プラン策定時は、確か夕張市の財政破たんの時期であった。（当時）合併直後で、重複業務、施設の合理化改善の余地があったが、ここへきて19億、市民に負担を強いるだけで10億は出てこない。今までの延長線上での改善ではなく、新たな発想、視点を変えた提案をしていただきたい。</p>
委員	<p>人口推計の数字はほぼ100%信用出来る。それで人口をどれだけ増やすかは難しい。現実を直視する必要がある。これは1市の問題ではなく能登全体の問題。各市町はもっと悩んでいるかも。どこかの段階で大合併があるかもしれないことを見据えた方向付けを、七尾市が中核でリーダーシップを執る形で。あくまで私の希望です。</p>
委員	<p>平成35年には50,000人、52年には35,000人。各取組事項実施状況に「人口問題」について一つも取り上げてない。せめて皆で考えようという項目として入っていいのでは。簡単に受け入れるのではなく、足搔いてみる。</p>
委員	<p>これは実際定住人口なので、例えば、そのうち交流人口は2万人ですよ等、戦略方向はある。やはり孫の代でこんなところにいさせたく</p>



	<p>ないと思う人も増えてくるかもなど、様々なものが絡んでくる。総合的にリンクした形で打ち出していく必要があるのでは。</p>
委員	<p>単に人口を増やすだけではなく、色々な取組をしないと。手法を皆で真剣に考える。</p>
委員	<p>次回までに分かれば教えてほしいが、七尾ないし能登が最も歴史的に華やかかりし時代（北前船の時代、明治の貿易を始めた頃など）、その時の七尾の人口を教えてほしい。恐らく、この減った時と同じ位ではないか。むしろここ数十年が異常だったのでは。</p> <p>1つのアイデアとして「第3市民」に注目したらどうか。第2市民は、七尾市のお金で七尾市以外に生活している人、仕送りをもたらっている大学生等。（第3市民は）七尾市の経済力を離れて七尾市と繋がりを持っている人、その人たちの力でまちづくりを一緒に考え、委員が話した「あの手、この手」を一緒に考えられる対象として。市出身で都会にいて七尾の取組みを応援したいと思っている人が、どうやったら網に引っ掛かるのか戦略的に育てるにはどうしたらいいか。</p> <p>人口減は問題ではない。むしろ人口構成に着目。量ではなく質で見る。担う側かサービスを受けるだけの市民なのか、目標の立て方に工夫が必要。人口が減ったとしても、市のためにやろうと思う人がいたら活性化は可能。目標の立て方に工夫を。</p>
委員	<p>交付税減は収入の一部を見せてもらっただけで、中長期的な財政的状况を示されたわけではない。そんなに暗く考える必要はない。</p>
委員	<p>七尾市のスローガン「交流人口の拡大」の言葉をあちこちに見る。大命題だが、ある意味そんなに期待は出来ないと私は考えている。日本中人口減で、能登のような地域が日本中にあって皆考えること。観光の誘致、青少年スポーツ合宿所等など交流人口の拡大は必要だが、</p>

	<p>市民が満足感を持った行政運営をシビアに考えていく必要がある。35,000人で、ある意味十分だと思う。そこで頑張るといった計画を、是非頭に置いて立てていただきたい。</p> <p>一部の旅館にたくさんお客さんが来てもなかなか市税は増えない、一企業の利益増もしかり。なぜか。例えばスポーツ合宿者の人数増による関係事業所の税がどれだけアップしているか、この辺についてもシビアに検討をしていただきたい。たくさんの人達が全国、世界から来てくれることは大変嬉しいこと。しかし、ここに住む市民がどうやって生きていくのか、どういう思いを持って生活しているのか。心の豊かさにスポットを当てた行革を検討していただきたい。</p> <p style="text-align: center;"><b>－審議終了－</b></p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございました。次回は8月頃委員会を開催し、諮問したいと考えている。具体的な資料は、その時提示する。</p> <p>今ほど委員の皆さんがおっしゃったように、単に費用対効果ではない。しかし、5年後には19億円減がずっと続くことから、市全体の中でスリム化が必要ある。また、市民に自ら立ち上がっていただく所との住み分けをしなければならないと考えている。</p>
副委員長	<p>4. 副委員長挨拶</p> <p>合併後10年、地ならし十分ともいえない。未達成施設云々あり。あながち数字だけで見ていくものではない。同時に、地域の特色をも勘案した行革でないと、市民側に立った行革と言えない。中島、能登島の施設へ行って和倉温泉に、七尾市内に泊まる方もいる。観光は総合産業であり、相乗効果が非常に大きい。いよいよ次回から3次プランへ入る。人口問題、削ることだけが行革と捉えがち。行革委員会の中で、人口増をはかる施策についての話が組織として妥当か分からないが、「定住人口」をどう図るのか。七尾市が一番遅れている。</p> <p>先般、中能登町が企業誘致に立ち上がり首都圏へ出向くということ</p>

が新聞に掲載されていた。七尾市も、活力ある市に向けて次回からのプランに知恵を出していただきたい。

－会議終了－